FUレデューサー 取扱説明書

タカハシ

このたびは、FU(フローライト)レデューサーをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ご使用の前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いいたします。

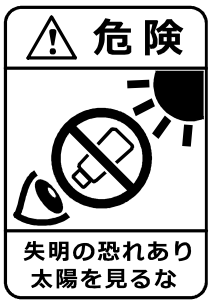
⚠ 警告

1.太陽を直接見ないこと

焦点には太陽の強烈な光と熱が集中しているため、失明する恐れがあります。

2.直射日光のあたる場所に置かないこと

光の思わぬ集光により火災の原因となることがあります。



特　徴

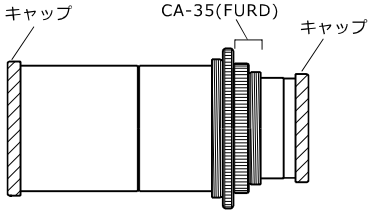
FUレデューサーはいずれもフローライトレンズを1枚含む4群4枚構成で、機種に合わせた専用設計としています。主焦点から0.65倍又は0.64倍に焦点距離を短縮して速写性を実現しつつ、35mmフルサイズの周辺まで均一かつシャープな結像が得られます。

※FUレデューサーは3機種とも外観が似ていますが収差補正はそれぞれの鏡筒に最適化されています。対象機種以外に使用すると結像性能は大幅に低下します。

仕　様

	60CP FUレデューサー0.65×	65D FUレデューサー0.65×	76DP FUレデューサー0.64×
対象機種	FS-60CP	FCT-65D	FC-76DP
光学系	4群4枚	4群4枚	4群4枚
焦点距離	230mm	260mm	365mm
口径比	1:3.8	1:4.0	1:4.8
イメージサークル	φ44mm	φ44mm	φ44mm
最大径×全長	74mm×137mm	74mm×136mm	74mm×128mm
鏡筒側ネジ	M64 P=0.75	M64 P=0.75	M64 P=0.75
カメラ側ネジ*1	M52 P=0.75	M52 P=0.75	M52 P=0.75
質量*2	410g	410g	400g
付属品	前後キャップ、CA-35(FURD)		

＊1 CA-35(FURD)後端の規格です。
＊2 FUレデューサー本体と CA-35(FURD) の合計質量です。

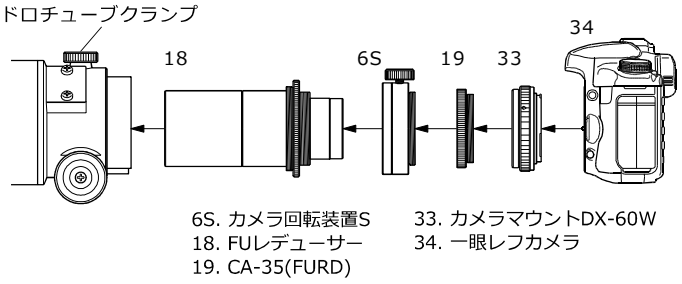


本製品はFUレデューサー本体とCA-35(FURD)がねじ込まれた状態で前後にキャップを付けて出荷しています。

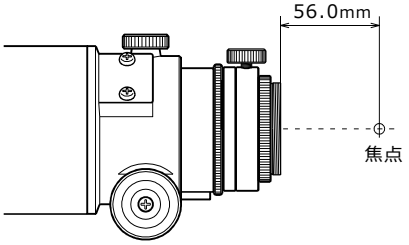
使い方

FUレデューサーを鏡筒へ取り付ける前に、出荷時にFUレデューサー本体にねじ込まれているCA-35(FURD)を外します。続いて鏡筒のドロチューブ後端に接続されているリングを全て外し、FUレデューサー本体をドロチューブに直接ねじ込みます。FUレデューサーはドロチューブに深く入り込むうえ、先端部にレンズがあるので、ドロチューブに当てて衝撃を与えないように注意して脱着してください。また、撮影中に緩むことがないように、しっかりとねじ込んでください。
その後、FUレデューサー本体の後端に別売（対応鏡筒には標準付属）のカメラ回転装置Sを取り付け、その後CA-35(FURD)をねじ込みます。

<注意>
ドロチューブに負担がかかる事を防ぐため、ねじ込み式の機材を取り付ける際は、ドロチューブクランプを締めてから行うことをお勧めします。



上記のように取り付けるとFUレデューサーの大部分がドロチューブ内部に入り込み、下図のような外観となります。下図はFC-76DPの場合ですが、**FS-60CPとFCT-65Dの場合、ドロチューブは接眼体から数mmだけ繰り出された状態で無限遠にピントが合います。**



CA-35(FURD)のネジ後端から焦点面までのメタルバックは56.0mmです。カメラマウントDX-60Wと一眼レフカメラの組み合わせが適合します。CMOSカメラを異なる方法で取り付ける場合はメタルバックが56.0mmとなるようにしてください。

●フィルターの使用
FUレデューサー使用時は、ドロチューブ後端からCA-35(FURD)までの間にフィルターを取り付けできません。フィルターを使用する場合は、一眼レフカメラの場合はカメラ内部に取り付けるクリップイン式のみ使用可能です。CMOSカメラの場合は別途フィルターホイール等をご使用のうえ、CA-35(FURD)よりもカメラ側にフィルターをお取り付けください。なおフィルターを使用するとゴーストが発生する場合があります。

株式会社 高橋製作所　〒174-0061 東京都板橋区大原町41-7　TEL.03-3966-9491㈹
https://takahashijapan.jp